

**「異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業」
(課題設定型研究領域) 研究概要**

研究テーマ（領域）名

公共的コミュニケーションの可視化－複雑社会における政治的法的判断の構造

責任機関

東京大学

研究実施期間

平成 21 年度～平成 25 年度

研究プロジェクトチームの体制

研究総括・グループリーダー・研究分担者の別	氏 名	所属機関・部局・職
研究総括・グループリーダー①	城山英明	東京大学・大学院法学政治学研究科・教授
研究分担者	加藤浩徳	東京大学・大学院工学系研究科・准教授
研究分担者	松浦正浩	東京大学・公共政策学連携研究部・特任准教授
グループリーダー②	佐藤達哉	立命館大学・文学部・教授
研究分担者	稲葉光行	立命館大学・政策科学部・教授
研究分担者	指宿信	成城大学・法学部・教授
グループリーダー③	鎗目雅	東京大学・大学院新領域創成科学研究科・准教授
研究分担者	佐藤仁	東京大学・東洋文化研究所・准教授
研究分担者	平川秀幸	大阪大学・コミュニケーションデザインセンター・准教授
研究分担者	松尾真紀子	東京大学・大学院公共政策学連携研究部・特任研究員

配分（予定）額

単位：千円

平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
4,600	3,700	3,700	3,806	4,212

研究概要

内外の研究動向や学術的背景及び本研究の着想に至った経緯を踏まえた研究の目的

公共的課題、例えば環境問題へ対応のためには、ライフスタイル等ビジョンの共有が必要であると主張されることがある。しかし公共的意思決定においては、全主体が同一の価値・ビジョンに合意する必要はない。「**同床異夢**」も重要である。例えば、温暖化対策が重要であるという主体もいれば、エネルギー安全保障が重要であるという主体もいる。両者は共に原子力やバイオマスエネルギーを支持しうる。しかし常に同床異夢が可能である保証もない。トレード・オフの中での選択を強いられることもある。誰の如何なる利害関心を切り捨ててもいいのかという**価値判断**が求められる。このような**同床異夢と価値判断の微妙な共存関係**は政治的判断や法的判断といった公共的コミュニケーションの鍵であるが、従来、政治的熟慮あるいは行政裁量といった概念の下でブラックボックス化されてきた。本研究では、現代の複雑社会におけるかかる微妙な共存関係を、工学系を含む諸分野との協力により**可視化**し、伝統的な文書に替わる政治的法的判断の表現形式を試行する。城山は、科学技術と政治・法の交錯領域に関する研究してきたが、本研究はそれらの政治論一般への含意を探る試みである。また、城山・平川、佐藤(達)、佐藤(仁)は、科学技術、水平的人間関係、資源という事例を対象に人文社会科学融合的な分析を試みてきた。本研究では、個別的融合分析を基礎に、公共的コミュニケーションという横断的課題について検討することで、一定の**学融合の方法論**を抽出することも目的としている。

研究期間内における研究方法と年度単位での研究計画：3研究グループの内容と年次計画

①**アジェンダ設定の可視化研究**：ソフト OR に基礎を持つ**問題構造化手法**（ステークホルダー分析手法を含む）を用いて、関係者の異なった問題認識を前提として**アジェンダを設定するプロセス**を可視化する。初年度：ソフト OR 手法整理；2年度：包括的地域事例を対象に実験；3年度：他分野の適用可能性と政策過程論における位置づけ検討；4年度：認識図記述及び認識確認手法の明確化；5年度：手法の完成。

②**対立構造の可視化研究**：複数の主張の矛盾や変遷や対立を可視化する方法である**複線径路・等至性モデル**を基礎に、情報学研究者の支援を得て、**地図の二次元情報と時間の一次元を三次元のキューブで表す手法**を開発し、事案に対する主張が対立・変遷するプロセスを可視化し、**公共プロセスにおける利用可能性**を検討する。初年度：刑事司法を対象にシステム作りと事件の調書類の電子テキスト化；2年度：複数事件の調書テキスト化と分析；3年度：国際紛争等他分野での適用検討；4年度：多次元的政策論議分析の試み；5年度：多次元的政策論議分析の完成。

③**ネットワークと価値判断の可視化研究**：サステナビリティ確保等に関する複雑社会における公的コミュニケーションでは**既存システムを横断したネットワーク（コミュニケーション・知識形成）**が重要であると共に、このようネットワークのあり方の中に**価値判断**が埋め込まれる。ネットワーク分析等の手法を用いてこのシステムを繋ぐネットワークを可視化すると共に、ネットワークにおける協働的コミュニケーション手法、価値判断を可視化しうる**事例分析の方法**について検討する。初年度：ネットワーク分析・協働手法、価値判断の枠組検討；2年度：事例適用；3年度：他分野への適用可能性検討と実践的事例研究の方法論の構築；4年度：政策文書のテキスト分析に基づくネットワーク分析手法の検討；5年度：政策文書のテキスト分析に基づくネットワーク分析手法の完成。

④**横断的研究**：4年度と5年度には横断的課題としてリンのガバナンス問題等についてグループ横断的に取り組む。また、5年度には国際ワークショップを開催し、成果に関するコメント

を得るとともに、研究成果の発信を行う。

当該研究において期待または想定される成果・波及効果

工学的支援手法と社会科学理論分析を統合することで、社会科学理論分析の**対象事象を可視化**すると共に、工学的支援手法がいかなる文脈において機能を果たすのかを明らかに出来る。また、仮説検証の事例分析ではなく、**価値に関わり実践性を有する事例分析**（法学の判例、医学の症例とも連関）とその蓄積についての方法論を構築し、いわゆる実証主義へのオータナティブを構想する。なお、このような模索は、欧米におけるサステイナビリティサイエンスやトランジションマネジメントといった**文理融合領域における政治学の役割の再発見**にも呼応するものであり、環境、健康、高齢化等多様な社会課題への対応の基礎となるものである。